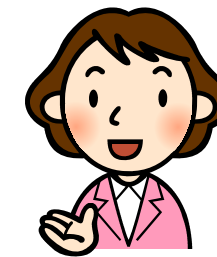


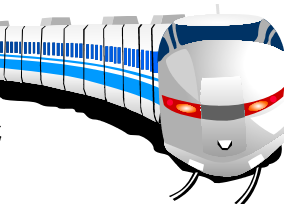
# くらしを政治につなぐ役割は これまでもそしてこれからも



## 問

4年後に九州新幹線全線開通の予定ですね。鹿児島中央から新大阪間は乗り換え無しで直結、所要時間は3時間40分だとか。しかし、今の熊本の交通網では、観光客が熊本駅で降りた後、行きたいところへ自由にいけないような気がします。また、熊本市西部に住んでいて切実なのは、幹線道路にはバスは走っていますが、東バイパス沿いの総合病院に行きたくても、交通センターで乗り換えなければならず、実際は車でしか動けないことです。運転しない高齢の皆さんなどは、車に乗らないと、市街地にも病院にも行けない。これはまさに“交通格差”です。熊本の交通網は、もういい加減に変わらなければ！（20代女性・大学生）

## 交通問題



## 答

私は、6年前にストラスブール(フランス)を訪れ、古い町並みに自然にとけ込んでいるモダンな路面電車に魅了されました。「どこにでも行ける、何にでも乗れる」開放感はいよいよないものでした。もちろん車いすやベビーカーも難なく乗れる電停や車両です。郊外に向かうと、駅毎にパーク・アンド・ライドで駐車場が用意されています。また、路面電車を降りると同じプラットフォームにバスが待っています。連結のスムーズさにも感心しました。

熊本都市圏の公共交通を考えた時、何とか新幹線全線開通までに、電鉄と市電を水道町で結節し、菊池方面から熊本駅へ、熊本駅から菊池方面へと流れを創ることは、熊本都市圏の公共交通の利便性という意味で、不可欠であると感じます。また、市電の田崎方面等への延伸や、路線バスだけでなく路地裏にも運行できるコミュニティバスも導入すれば、「交通弱者」や「交通格差」を生み出さない仕組みは可能です。私の重要な役割の一つとして、実現させたいと思います。

## 問

以前に比べて、一生懸命働いても、給料はあまりもらえていないと感じます。今は、健康で働いていますが、もし、事故や病気で働けなくなったとき、まだ学校に行っている子どもたちを、育てていけるのだろうかとても心配になります。とても保険代や老後の備えにまわせるような余裕はありません。将来に不安を感じないで、安心して働き続けられる社会にならないのでしょうか。その一方、一部の天下りやズル賢い人たちや大企業だけが得をしているなんて…。これから親の介護も加わるでしょうし、正直、明るい明日が見えません。（40代男性・会社員）

## 私はワーキングプア

### (働いても楽にならない人たち)?

## 答

数ヶ月前、NHKスペシャルで、アルバイトでつないで暮らす最貧困状態にある若者や母子家庭の母親や、病気の親を介護しながら働く女性など、厳しい生活実態にある人たちのことが報告されていました。

私自身、母子家庭で育ったこともあり、胸が押しつぶされそうでした。仕事をしていた母が長期にわたり病に倒れたら、彼らと同じ生活でした。毎日、精一杯頑張っている人たちが、ギリギリの生活であるというのは一体何故なのでしょう。

国は、このような母親がステップアップするための支援にやっと乗り出そうとしていますが、生活費が完全に保障されて、その間安心して学び、資格を取るという環境にはほど遠い現実です。「母と子どもたち」あるいは「父と子どもたち」が生きていくために、今何が必要かを考えるのが行政の責任のほうです。このことについては、私も経済常任委員会で何度か質問してきましたが、今後とも情報を適時収集しながら、ワーキングプア状態にある人がいなくなるまで取り組みます。

## 問

子どもの育ちや将来が本当に心配です。少人数学級は、熊本市では現在小学3年生までです。思春期に向かう高学年や、中学校にこそ、少人数学級は必要だと思います。何がきっかけで、いじめに遭うかわかりませんが、あるいは加害者になっているかもしれません。親もちろん、子どもと十分会話をしていますが、学校でも先生方の負担を軽減して、子どもの育ちや心の変化に丁寧に接していただけるように、やはり少人数学級は重要だと思いますが、いかがですか。（30代女性・パート職員）

## 本当に豊かで平等な教育?

## 答

OECD先進国の中で、日本は教育・医療・福祉にかかる予算が、最も低い国です。ところが、授業時間数が少なく、受験が無い北欧諸国の方が、学力は日本より高いポイントです。それにしても日本のように、点数で輪切りにし、一面的な尺度で子どもをランク付けして、子どもの心の成長にいい影響があるのでしょうか。

一昨年、北欧のデンマークで小学校や教育委員会を視察しましたが、20人前後のクラスで、子どもたち同士が学習をサポートし合う環境を見てきました。その過程で、真の学力や応用力、そして人と人との関係の作り方が身に付いていくのだと実感しました。

さて、地方での教育格差の問題は、本県では「高校再編」という形でも現れてきています。少子化や市町村合併に伴い、一定程度の再編は避けられないと思いますが、地元にとっては、地域を引っ張っていく人材が地元を離れる可能性が大きいことや、親の経済的な負担が増大することなども考えなくてははいけません。熊本市に住む子どもたちも、周辺の高校に押し出される可能性も大です。今後とも、高校再編の影響が将来どんな意味を持つのかも含め、県議会でも論議を尽くしていきたいと思っています。



- |                    |                  |             |                   |
|--------------------|------------------|-------------|-------------------|
| 1 安心して暮らし続けられる社会を  | 2 女性も男性も生きやすい社会を | 3 楽しく通える学校を | 4 人と自然が共存できる社会を   |
| 5 人と環境にやさしい交通システムを | 6 情報公開と市民参加型の県政を | 7 人権を県政の柱に  | <b>平野みどり7つの政策</b> |